



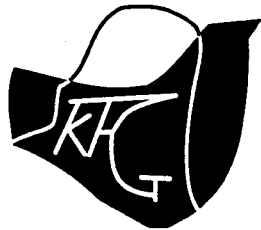
# 黄河の森

## K F G

発行/特定非営利活動法人  
黄河の森緑化ネットワーク  
代表理事/林 同 春  
編集責任者/一木 仁  
〒650-0011  
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11  
神戸華僑会館内  
TEL・FAX:078-392-8328  
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp  
URL:http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg  
IP:05031111874



六甲山・住吉山手で植樹した栗が開花



ああ あの大河 太古より 流れる誇り  
ああ その緑 永久に たやさぬ心  
燃えたつ生命 ここに ここに

### CONTENTS

- P.2 2009年度総会
- P.2 ワーキングツアーのお知らせ
- P.3 蘭州市民アンケート
- P.3 チャリティーゴルフコンペ
- P.4 私と環境(11) 庭木の健康診断③
- P.4 絵本からのエコ・メッセージIX
- P.5 黄土高原の植物XII
- P.5 2009年度下期植樹とクリーンキャンペーン日程
- P.6 神戸、蘭州で写真展とシンポジウム開催
- P.6 「ふるさとの木」募集

## 第6回総会

# 共同植樹やボランティア支援

特定非営利活動法人「黄河の森緑化ネットワーク」の第6回通常総会が5月30日、神戸市中央区の中華会館7階「東亜ホール」で開かれました。第1号議案「08年度事業報告書及び財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書」と、第2号議案「09年度事業計画書及び収支予算書」の2議案が承認されました。

新型インフルエンザの影響で一時的に開催が危ぶまれましたが、弱毒性に加え、兵庫県、神戸市の安全宣言が出されたことから、どうにか開催にこぎつけました。

会員323人の半数162人の定足数に対し、出席28人、委任状145人、書面による決議参加4人の計177人で総会は成立。林同春代表理事に代わってあいさつに立った永山勝司副代表は「活動開始から今年で8年目。会費と寄付金で単に植樹をしていた初期に比べ、活動の幅が広がった。三井物産環境基金プロジェクトは3年間の最終年だが、四川大地震や新型インフルエンザ禍で事業計画が若干遅れている。当初の目的にかなうよう、ご協力を賜りたい」と述べました。

08年度事業報告によると、蘭州市の41区に低木ベニスナ10万5000鉢を植樹、三水造林と菌根菌を活用した

植樹技術の研究にも従事しました。昨年4月と9月には、技術団を派遣し、大学などでの講演やNGO、民間企業などを訪問して、共同植樹やボランティア組織との連携、支援などを探りました。



植樹計画などを承認した総会



蘭州の植樹の進展ぶりを  
見る会員ら

国内では、地元の六甲山で植樹と下草刈り作業、清掃ハイキングを継続して実施。地道な活動に対し、国

交省六甲砂防事務所から「森の世話人」の認定を受けました。

09年度事業計画では、最終年度の三井プロジェクト推進のため、蘭州市への技術団派遣、2年ぶりのワーキングツアー実施と現地NGOなどの共同植樹を予定しています。環境保全のためのシンポジウムと写真展を来年2月に神戸で、同4月には蘭州で開くことなどが承認されました。

総会に併せ、ロビーでは「緑化写真展」が開かれました。蘭州市の植樹基地に建てられた記念館や緑化先進企業訪問の様子、樹齢1300年の巨木、六甲山での植樹など、15枚のパネルが展示され、出席者は興味深く見つめていました。

総会後の研修会「三井プロジェクト蘭州活動現状報告」は、矢野正行事務局長と中谷安廣理事の2人が担当しました。昨年9月に蘭州市を訪問した際の環境保護団体「緑駝鈴(グリーンキャメルベル)」や、甘肅農大林学院や蘭州大との交流などを、スライドを交えながら説明しました。

終了後、恒例の交流会が開かれ、中華料理に舌鼓を打ちながら、黄土高原の緑化や六甲山の植樹について意見を交わしました。

## 2年ぶりワーキングツアー

— 蘭州NPOなどと共同植樹 —

会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。今年は5月からの新型インフルエンザの流行で蘭州への訪問が大幅に遅れています。6月末現在でもいつ指揮部等との打ち合せに行けるか目途がたっていません。

しかし、今年9月19日から同月26日までのワーキングツアーは何としても実施する予定です。

このツアーでは初の試みとして、蘭州市民と一緒に我々の2期植樹基地で共同植樹を行う予定で、同市のNGO「緑駝鈴(グリーンキャメルベル)」、蘭州大学緑隊などに参加を呼びかけています。今後の蘭州市での植樹活動をより活発に推進し、広

く市民にも我々の緑化活動を知ってもらい、より深い理解をしていただく良い機会になると期待しています。

蘭州には3泊し、敦煌の莫高窟とともに甘肅省三大石窟といわれる同市の炳靈寺石窟と、天水市の麦積山石窟を見学する予定です。

その後には、昨年会員の皆様から四川大地震の義援金を募りましたが、これを贈呈した甘肅省南部武都市の小学校を訪れ、友好を育む予定です。現地にはまだ「黄河の森緑化ネットワーク(KFG)」の会員は誰も訪れたことがありません。どのような所か、またどのような環境で勉強をしているのか、非常に興味を持ってい

黄河の森緑化ネットワーク

事務局長 矢野 正行

ます。児童や先生また保護者の方々との懇談を通して、KFGの重要目標でもある、日中友好の橋渡しができるかと考えています。

さらに、中国の古都長安(西安)を訪れ、秦の兵馬俑、玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスで有名な華清池、三蔵法師ゆかりの大雁塔などの見学を予定しています。

昨年は四川大地震と同時期に発生したテロの影響でワーキングツアーを取りやめましたが、今年は上記のように新しい取り組みも考えています。多くの会員の皆様とお友達がお誘い合わせの上参加されることを願っております。

# 緑化立ち遅れ認める 環境対策として期待

意識調査  
蘭州市民

# 緑化は行政主体で K F G活動に期待

「黄河の森緑化ネットワーク（K F G）」が植林活動を進めている中国甘肅省蘭州市民の大半が、同市の緑化が立ち遅れており、精神的な落ち着きや砂嵐防止、大気汚染防止のために緑化に期待していることが、市街地住民を対象にしたアンケート「蘭州の人たちはこう考えている」で分かりました。

	城蘭区	安寧区	七里河区	西固区	合計
知っている	15.3	12	18.2	14.2	14.8
知らない	81.6	84.8	80.4	81.5	82.1
未記入	3.1	3.2	1.4	4.3	3.1
合計	100	100	100	100	100

	城蘭区	安寧区	七里河区	西固区	合計
必要ない	9.6	4.4	7.2	5.1	6.8
期待する	49.6	61.6	55.5	49.6	53.6
どちらとも	35.7	28	33.5	39.8	34.4
言えない	5.1	6	3.8	5.5	5.2
未記入	5.1	6	3.8	5.5	5.2
合計	100	100	100	100	100

調査は、蘭州市民の緑化意識や市民のマンパワーと緑化を結びつける鍵を探ることを目的に、昨年5月、甘肅農大林学院に委託。学生が2～3人1組で、市の5区3県のうち市街地4区を対象1200人に配布、有効回答率は88.8%でした。

対象者の年齢は18歳から78歳までで、平均35.8歳（男37.7歳、女33.9歳）。蘭州市に住む38民族中6民族が回答に含まれ、うち96.2%が漢民族でした。大卒が4割近く、都市部に住む漢民族の知識階級を中心とした調査になっています。第1報「悩ましい乾燥と強風にどう対処するか」では全体と区ごとにまとめ、第2報は男女別・年齢別、第3報は回族について集計しました。

公園利用頻度では、月に1度も行かない人は各区31～46%で平均38.8%。月1～2回が半数弱と最多でし

た。緑化の進展度では、「低い」と「どちらかといえば低い」が計79%と圧倒的でしたが、70%が以前と比べ緑化面積が増えたと答え、少しずつですが緑化が進んでいることを認めています。

環境問題で特に重要と思うものは、大気汚染、砂嵐、ゴミが上位3位で、砂漠化、騒音、生態系の破壊、水質汚染一と続きます。これらの問題については70%が解決可能としています。

全民義務植樹運動への最近2年間の参加率は56.2%で、全国平均よりやや低めですが運動そのものは80%超が「植えた木の成長を見たり、緑が増えるのが楽しい」と肯定的です。嫌に感じる中では「成果が予測できず、無駄な気がする」と言う声が多数でした。

緑化の主体については、各区とも地方政府、国家、個人の順で、行政主体が70%を超えました。環境をよくするために自らの意思で参加したい活動では、どの区でも美化活動、緑化活動、子どもへの啓発・教育が上位3位に入り、全体では3つで70%弱を占めました。

K F Gの蘭州での緑化支援活動については14.8%が知っており、総人口比に当てはめると約27万人に知られている計算になります。半数以上が活動に期待していると答え、必要ないは7%でした。

蘭州の居住環境に対し緑化面からの提案では「公園・緑地の面積、数を増やす」「大樹を多く植える」が計86%に達しました。環境汚染の原因

には、環境保護意識が低い、人口増、消費の速度一が挙げられました。もっとも嫌な気候では、乾燥、強風の2つがともに40%以上でした。

男女別に見ると、緑の効用について女性は、目につきにくい水源涵養や水土保持よりも、直接的に身に降りかかる大気汚染や砂嵐防止への期待が高い傾向が見られました。蘭州の暑熱に閉口し、温暖な所を望み、大気汚染軽減に緑を期待しています。義務植樹参加は以前女性の参加が少なかったが、最近では増えています。植樹のための寄付についても、9割以上が「年1回なら」と答えています。

年齢別では、月10回以上公園を訪れる人は51～78歳と34～50歳という傾向があります。好きな木や草花では、34～50歳はポプラ、51～78歳はサルビアを挙げています。蘭州市の緑化が遅れていることへの認識はど

	城蘭区	安寧区	七里河区	西固区	合計
国家	27.3	18.9	23.9	22.7	23.7
地方政府	46.1	43.2	52.2	48.1	47
解放軍	6.4	5.9	4.5	6	5.9
学生	4.7	5.9	4.1	3	4.5
私営企業	4.9	4.8	3	3.8	4.3
個人	6.4	11.9	7.5	7.9	8.2
その他	2	4.2	0.7	4.9	3
未記入	2.2	5.1	4.1	3.6	3.5
合計	100	99.9	100	100	100.1

※複数回答

の世代にも共通しており、森林や草原など求める緑化の形態についても世代間に大きな違いはありませんでした。

今後も職業別分析などとともに、フリーアンサーの翻訳を進め、蘭州でのボランティア組織支援の参考にします。

## 植樹支援に慈善ゴルフ

神戸日華実業協会など K F G に収益寄付

第15回日中親善チャリティーゴルフ会（神戸日華実業協会、神戸中華総商会主催）が5月22日開かれ、神戸市内に本社、支店のある日中企業の代表者32名が参加しました。

コンペの収益金は毎年、日中友好の一環として黄土高原で植樹をしている「黄河の森緑化ネットワーク」に贈呈されています。今年も6月10日

に東天閣で贈呈式があり、林文明専務理事と矢野正行事務局長が出席し＝写真、14万1000円を頂きました。

寄付金は我々の活動に有意義に使わしていただきます。また、会員の皆様の中で、来年コンペに参加をお願いできる方は、事務局矢野までぜひ連絡してください。



# 私と環境(11) 庭木の健康診断 ③

— 庭木の観察 幹と根 —

樹木環境研究会議「ミルフィーユの会」

KFG顧問 天野孝之

幹の一番外側は樹皮で囲まれています。クロマツのように深い裂け目があり厚い樹皮を持ったものから、ツバキ、カエデ、サルスベリのように薄い樹皮のものまでいろいろあります。樹皮が薄いと幹が日焼けを起こしやすいので、樹幹に直射日光が当たらないように注意する必要があります。

湿度の高い日当たりの悪い庭に植えられた樹勢の弱った庭木には、ウメノキゴケなどの地衣類（菌類と藻類との共生する隠花植物）が着生する場合があります。梅や松に地衣類が着生しているといかにも古風で値打ちがあるようですが、庭木にとって気象条件や庭木の根系状態が悪いことを示しています。

樹幹中を樹液が流動する早さは一時間あたりに50～100cmほどです。樹液の流動を樹幹外部から直接見たり聞いたりすることはできません。もちろん聴診器を当てて樹液流動を聴くこともできません。「音」は耳には入ってきますが、風による樹幹の揺れや、聴診器が樹幹をこする音です。

根の先端に細胞分裂を繰り返し、伸長している白い部分があります。これは吸収根といわれ、土壌中の水分や養分を吸収するだけでなく、土壌中の酸素も吸収しています。細

い根っこから吸収された水分や養分は太い根へ移動し、樹液として幹、枝を通して葉まで達します。

根の伸長成長はこの根端組織によって行われており、乾燥、過湿、空気不足など根にとって生活条件が悪いところでは伸長成長は停止し、根はひろがりません。このような場所



桜の樹幹腐朽部から発生した根系

では水分・養分などを吸収する根表面の面積が広がらないので、庭木の正常な成長は阻害されます。庭木を植えかえるとき、剪定鋏や鋸で太い大きな根をよく切ることがあります。これらの0.5～2cm程度以上の太い根は庭木が倒れないように、樹体を支持する働きがあります。細い根、太い根をいかに健やかに育てるかが、庭木の生育に大きく影響を与えます。

水分・養分を吸収する細い根は、地表から30～50cmほどの深さのところを、ほぼその庭木の枝の先端あたりまであるいはそれ以上に伸びているといわれています。そしてその伸びた先端で水分・養分などの吸収を行っています。しかし庭木の場合、家屋、塀、石組など、あるいは隣の庭木の影響を受け、必ずしもそのようになっていない場合もあります。太い根は地表部ばかりでなく、樹幹直下50cm以上深いところまでも直根を伸ばし、地上部の大きな樹体を支えています。水分や養分の吸収する働きはほとんどありません。

老衰した庭木や病虫害などで衰弱した庭木の回復法として、根切りや根継ぎが行われる場合があります。根切りは、文字どおり根を切ることです。根には元々根が損傷老化したとき、新たに元気な根を出さず働きがあります。この原理を利用した方法です。根の勢いが強いといくら枝を切り詰めても成長を抑制することはできません。このようなときは枝を切り詰めるよりも根を切り詰める方が目的を達成しやすいです。

## 絵本からの エコ・メッセージ IX

### よみがえれ、 えりもの森

北海道日高山脈のすそ野にひろがるえりも町は、かつてはコンブ漁でにぎわっていました。そのころは森林におおわれた自然豊かな地だったのです。が、コンブ漁のために多くの人々が集まると、当然木々はどんどん伐採されていきました。たったの半世紀で、えりも町から森が消えてしまいます。

森が消えるということはどういうことでしょうか？

風は乾いた土を、雨ははげ山の泥水を海にそそぎます。沖まで赤にごった海にはもう魚もやってきません。えりもの宝のコンブもどろろコンブになってしまいました。

この物語は、荒れてしまったふるさと、えりもの浜や海をよみがえらせようとがんばる漁師たちを描いています。長い年月をかけ、森を再生させていった漁師たちの苦悩の実話からつくられました。

やっとなコンブ舟をだすことができた漁師が息子に語ります。「おれはコンブ漁師だが、半生は山にかけた。漁師だから、海のことだけを考えていればいいんでない。山があれば、海もあるんだ」

今に通じるエコ・メッセージに身の引き締まる思いになります。

KFG会員 畑中弘子  
(児童文学者)



本木洋子・文 高田三郎・絵  
新日本出版社

## 黄土高原の植物Ⅱ

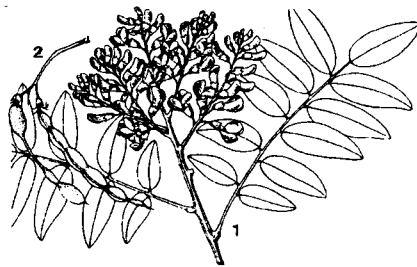
## よく誤解される「学名」、そして中国にとって エンジュのはがゆい学名

KFG顧問 徳岡正三(元高知大学農学部教授)

木の話をしていて、相手の方から「私はこの木の名前を〇〇といいます、学名では何といいますか」と尋ねられることがよくある。相手の方の話ぶりなどから普通名と学名を混同されているのだと分かる。

例えばトガと呼ばれる木がある。「私はこの木をトガといいます、学名では何といいますか」と話されたとき、その方は普段トガという名を使っているが、この名が正式な名かどうかを知りたいのである。この正式な名とは普通名をさしている。普通名は全国的に通じるいわば標準語のようなもので、図鑑に載る名前である。トガは高知県などでよく使われるが、全国的に認知された普通名はツガという。あえていえばトガの正式な名はツガとなる。ちなみにツガの学名はTsuga sieboldiiである。学名は世界に通じる名前であり、ラテン語が使われ、国際的なルールのもとで決められる。

さて、私たちが活動している蘭州市の「市の木」はエンジュである。エンジュは黄河の中下流域が原産で、日本にとって外来の木とされる。中国の普通名は槐樹といい、国槐という呼び名もよく見かける。マメ科クララ属の落葉高木で街路樹や公園の木としてよく使われる。蘭州でも街路樹はエンジュが多い。市街の大通りに面した道教寺院の白雲観や金天観には唐代や明代に植えたという巨木がある。郊外でも狭い道に大きな



エンジュ

1. 花をつける枝 2. 豆果



白雲観に育つ約500年生のエンジュ

木が育っていた。

蘭州という乾燥地でこうした巨木を育てるには、普段から注意深く手を加えていつくしんできたと思われる。人には木をいつくしみ育てる心情があるというのを目の当たりにして、緑化への可能性を感じる事ができ、力を与えられる。

それはさておき、エンジュの学名はSophora japonicaという。学名は属

名+種小名であらわされ、Sophoraが「クララ属」を、japonicaが「日本の」という意味を持つ。あえて訳せばこの学名は「日本のクララ属」ということになる。中国原産で、よく国槐とも呼ばれるのに、学名には「日本の」が入っている。中国にとってこれははがゆい学名ではないか。

どのような経緯があったか分からないが、エンジュの学名はフランスのキャリエールという人が命名者になっている。学名はいったん認定されると、分類学的に誤りが無い限り変更はされない。エンジュと似た例は他にもみられる。ウメも中国原産であるが、その学名はPrunus mumeである。日本名のウメがmumeとして学名に入っている。この命名には有名なシーボルトがかかわっている。ついでにもう1つ、モモも中国原産とされるが、この学名はPrunus persicaである。persica、つまりペルシャ産となっている。

何事も最初に決めるときは慎重でなければならないが、あとからいろいろ不具合が出てくるのが人間の世界というものだろうか。それも学名のようにやり直しができないのもあるのである。

### 六甲山クリーン&グリーン活動

六甲山植樹 - 住吉山手5期植樹 -

- 2009年9月5日(土) 下草刈り
- 2010年2月下旬 6期整地
- 3月初旬 6期植樹及び
- 1~5期植樹地の枯れ木植え替え
- 集合 JR住吉駅南側
- AM. 9:00
- 服装 長袖、帽子、運動靴
- 持参品 弁当、水筒、軍手、雨具、タオル

### 六甲山クリーンアップ活動

- 身近にできることから始めよう -

- 日時 2009年10月10日(土)
- 集合 阪急岡本駅
- 歩行 約4時間
- コース 当日朝、発表します。
- ミステリーハイクをお楽しみに
- 持参品 弁当・水筒・雨具・タオル・ビニール袋・軍手
- リーダー 矢野 正行
- サブリーダー 安本 昭久

参加できる方は  
事務局までお知らせ下さい



## 守ろう、増やそう六甲の緑

六甲山クリーン&グリーン活動は、09年度も皆様の協力により前半の予定を滞りなく終了しました。今年度から、国交省六甲砂防事務所の「森の世話人」事務局の方が、取材を兼ねて1名参加されています。

6月13日に、神戸市東灘区住吉山手の植樹地で行った下草刈りには、会員ら15人が、梅雨の晴れ間を縫って約4時間、草刈り機や鎌を使って桜や栗、ナラなどの下草を刈り取り、さわやかな汗を流しました。桜は高さ3m以上に成長したものもあり「春にはお花見が楽しめそう」と、話が弾んでいました。「黄河の森ネットワーク」にとって、この活動は国内の最重要活動となっています。会員の皆様の参加をお願いします。



さわやかな汗を流した後、全員で記念撮影

# 神戸、蘭州で写真展とシンポジウム

2月神戸・4月蘭州  
緑化理解、支援訴え

「黄河の森緑化ネットワーク(KFG)」の中国甘肅省蘭州市での植樹活動は8年目を迎えました。また、三井物産環境基金の支援を受けた蘭州での2期植樹事業も、最終年次の3年目となりました。

これまでKFGが展開してきた活動の紹介と今後の理解、支援を求めて、来年2月に神戸、同4月には蘭州で、ともに写真展とシンポジウムを開きます。

写真展は、それぞれの地域の現状や考え方を紹介し、今後の活動方針および活動内容を地域

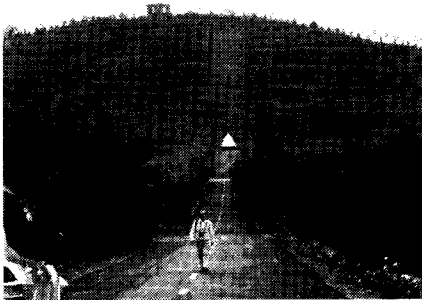
の人々に広く伝えたいと考えています。また、多くの人々に活動を理解していただき、支援を得たいと思っています。

さらに、写真展の期間中にシンポジウムを開催、植樹活動を通じての「住みよい環境作り」「ボランティア組織の育成」「日中交流」について、日中双方の有識者による講演を予定しています。

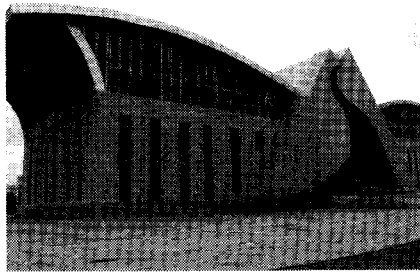
多くの方々の参加をお願いするとともに、今後の活動の一助にできればと考えています。開催要領は次の通り。

- ①神戸市での写真展  
場所 元町アートギャラリー  
期間 2010年2月11日(木)  
～16日(火)  
時間 午前10時～午後7時
- ②神戸市でのシンポジウム  
場所 中華会館7階東亜ホール  
日時 2010年2月13日(土)  
午後1時半～4時
- ③中国蘭州市での写真展、シンポジウムは2010年4月ごろの予定です。

## ～蘭州緑化便り～



緑に覆われた1期の植樹基地



植樹記念館にはKFGの緑化活動も紹介されている



蘭州の「市の木」エンジユの巨木

### 巨木、古木、思い出の末

## 「ふるさとの木」募ります

あなたのふるさと、まち、身近な散歩道、または旅行で出会った好きな古木・大きな木はありませんか。

黄土高原の蘭州市での第2期緑化協力は最終の3年目を迎えました。三井物産環境基金の助成事業では緑化支援だけでなく、地域

住民の緑化への関心と参画を広めるため、大学・中学・民間NGOとも交流活動を行っています。その一環として、蘭州市民を対象に実施したアンケートの中で上記の同じ質問をしています。日中市民が思いを寄せている木を題材とした写真展を、神戸市(来年2月)

と蘭州市(同4月ごろ)で開催を予定しています。

その木の写真と簡単なコメントを、フロッピーなどデータか、プリントした写真を事務局へ郵送してください。寄せられた写真は順次、会報・ホームページにも掲載していきます。

締め切りは11月末ですので、奮って作品をお寄せください。